

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和4年5月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091300040		
法人名	株式会社アナログ		
事業所名	グループホーム太陽の家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町笠田東995番地1		
自己評価作成日	令和4年5月10日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和4年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、個々の生活の継続を支援できるよう関わりをもっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

令和3年4月に開設した新しい施設であり、建物や設備は、新しく使いやすいものが揃えられている。自然が多く残る地域に立地しており、静かで穏やかな生活を送るのにふさわしい環境である。
現状のコロナ禍において何かと制限が多い中、できる限り入居者に生きがいのある楽しい生活を送ってもらえるよう、特に食事に注力されており、献立作成から食材調達、調理まで全て施設職員で行っている。調理はユニットごとに行っているため、入居者の状態や好みに応じた柔軟な対応が可能である。
主治医との協力体制も整っており、看護師も配置されているため、緊急時の対応やターミナルケアにも対応可能となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員が理念を基とした行動が行えるよう、自身の言動や介護、指導内容などを考え、理念の内容を共有し繋げられるよう努めている。	理念である「太陽のような笑顔を」について、利用者、職員ともに実現できているか、職員会議等で確認、検討が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参入させていただいている。回覧板に記載される地域イベント等は参加を考えている。(現在コロナの影響ありイベント実施は自粛中とのこと)	コロナ禍において地域との付き合いはかなり制限されているが、町内会に加入しており、地域の清掃活動には参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援してきた介護の方法や話などを地域に活かされる機会を設けられればと考えている。(コロナの影響にて未実施)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ拡大のため自粛中	感染防止のため開設以来実施していない。	2カ月に1回以上の運営推進会議の開催は義務付けられているため、書面やウェブでの開催等、感染リスクの少ない開催方法を工夫される必要があると考える。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護福祉課や他部門と連絡をとり、意見を反映できるよう連携をとり努めている。	町や社協等、関係部署との連絡は日常的に行っており、空床状況等の情報も随時報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	個々に対して行動制限のないよう見守りながら、危険性を考慮し拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は中から解錠可となっている。	実際の身体拘束の事例はない。玄関は施錠されているが、やむを得ないものである。委員会や研修は特にないが、ケース会議等で身体拘束をしないケアについて日常的に話し合っている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的な虐待だけでなく、日常の中の言葉や会話の内容においても意識し皆で注意しあっている。勉強会はコロナの影響あり未実施。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>コロナの影響あり勉強会は未実施。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を通し説明、箇所ごとに話をする機会を設けており、理解いただけるよう努めている。緊急時の対応やリスク等についても説明し契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時相談窓口の説明、意見があった時はそれを施設に反映させていくよう努めている。利用者の要望等は日々の会話を傾聴</p>	<p>夫婦同室の希望や、食事内容についての要望にはできる範囲で対応している。面会や会計時に家族からの意見を聞くことが多い。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフ会議、会社会議を通し。</p>	<p>月1回職員会議を開催し、ケア内容や運営について話し合っている。勤務時間や備品の購入等、職員からの意見や要望がでることも多い。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>健康面に対し健康診断を行っている。個々の実績、経験、資格等から昇格を実施していければと考えている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修の参加</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修等の参加時に他施設の方との意見交換を行っている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の声、現状、困難点やその思いを傾聴し、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたり、介護保険にあたっての疑問、要望を聞き取り対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅、入院時の状況を家族やケアマネ、連携室より情報収集し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の尊重を意識、残存機能を観察し生かし共同生活へと繋げられるよう意識している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の話を通し、家族関係を考慮し対応している。コロナの影響あるも、面会を無くすのではなく予防し短時間の面会にて家族との関係性を保てるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ下における制限はあるが可能な部分において面会、外出に対応できるよう努めている。	コロナ禍において制限されている部分も多いが、玄関先での面会や、家族同伴での受診など、できる範囲で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に合わせスタッフが間に入り1人1人が関わりをもてるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、今後に対する声かけをし支援できるよう努めている		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどう生活していきたいか、入所時や日々のコミュニケーションからつなげ支援していけるよう努めている。	入所前のアセスメントの際に聞き取りを行い、職員間で共有している。排泄や家事の自立についての希望が多く、実現されていることが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者の状態、生活歴、既往歴等の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活、自宅における生活のあり方、残存機能、不自由点等アセスメントし現状につなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家人、周りの人を通し、また、スタッフの観察など、日々の記録で状況を把握し、変化する状態に合わせその人にとっての最適な支援を行なっている。	計画は6か月ごとに見直しを行い、家族や職員、主治医の意見を反映させ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録をタブレット入力で行い、変化や細かな気づき等タブレットや申し送りを通し情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者の心身に合わせた援助が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方々より地域資源の話を知りたりしている。ボランティア等の受け入れはコロナの状況により行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続診察は家人を通し可能。入所による継続受診が困難の場合は紹介状を通し施設の協力医療機関の診察、往診可。	協力医がホームに月2回往診に来てくれ、また夜間の対応も可能である。以前からのかかりつけ医の往診や受診、歯科や眼科などの受診も家族の協力を得ることで可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	正看護師を施設に配置。日々の状態を観察し適時報告、対応を行っている。勤務外のときは電話にて対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の経過や退院時の状態など、カンファレンスやサマリーを通し知り医療関係者と連携をとるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関して、入所時に家族の意向を聞き取り、説明を行っている。	本人の状態に合わせてその都度終末期に対する意向確認を行っている。協力医と連携を図り、重度化しても最期までホームで過ごす事ができる体制を整えており、入居者やご家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の行動を電話機の横に掲示し、説明。発生時の対応に繋げている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に対する設備を行っていたり、避難経路の提示している。備蓄の整備を検討し進めている。	できて間もない施設で実際の訓練はまだしていないが、今後年2回の消防訓練や地震などの災害に対する訓練が行われる予定となっている。また、備蓄についても水、食料が1Fの倉庫に準備されている。	既に計画されていることだが、今後は年2回の消防訓練の実施と、発電機等も含めた災害時用の備蓄品をさらに充実させることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの内容、話し方、1人1人に合わせ尊重し関わるよう皆意識している。	ケア中に不適切な言動がみられた際には、スタッフ会議やスタッフ間で注意し合うなど声掛けの仕方や対応の検討をしている。日々のケアの中で、その場その場で改善に向けた取り組みが行われている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の意思決定に寄り添えるよう思いの傾聴に努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活に重点を置き、傾聴し対応を行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた整容に努めている。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響あり、共同での準備は行っていないも、利用者に合わせて片付けの一部を行っている。	ホームで食事の献立を考え、食材を用意し、一から調理して手間をかけて食事を提供している。また入居者から希望があれば、出来る範囲で希望に副うようにし、食事を楽しむことができるよう支援されている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事、献立の提供に努め、水分は促し、定期的に摂取してもらえるようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。口腔内の観察を行う。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの観察、声かけによるトイレ誘導実施。残存機能の継続と改善を意識しています。	トイレでの排泄を基本とし、個々に応じた排泄介助を行っている。また一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間帯でパッドなどの排泄インナーを適切に使用するなど排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期を把握し、腹部状態、食事、水分、活動を観察し促す。便秘傾向みられればDr報告し対応。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個室にて入浴実施。今までの入浴習慣を把握し個々に合わせた介助方法を行っている。	時間帯やお湯の温度など今までの入浴習慣を把握し、心地よい入浴を提供する工夫や配慮がされている。また、希望される方には同性の職員で入浴介助を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠できるような安心できる環境作りを行い、利用者の訴え、体調に合わせてDrに報告し眠剤対応も実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr処方にある薬剤は看護師等により仕分けし、適時服薬できるように努めている。体調等変化あった場合は都度Dr報告し対応。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションによる情報収集を行い、おやつやレクリエーションに繋げている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響あり、外出自粛中。	今はコロナ禍で気軽に戸外へ出るのが難しいが、ドライブや野菜の栽培、ガーデニングなど、戸外に出ることでストレス発散や気分転換ができるような支援が予定されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭の取り扱いは控え金銭管理はキーパーソンの管理としている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙のやりとりや電話など本人、家族訴えあれば対応できるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快のないよう清掃を行っている。温度・湿度等ホール、居室のエアコンを利用し環境整備し管理。	新しい施設であり玄関や廊下、リビング等の共用空間は不快がないよう掃除が行き届き清潔感があり、気持ちよく生活できる。居心地良く過ごせるため、ほとんどの入居者が日中リビングで過ごしており、快適に過ごせる環境であることがうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のつながりを大切にできる空間作りに努め、談話室の空間も設備。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より必要なものを持ち込んだり、個々の過ごしやすいよう家具を設置。本人の状態に応じ配置変更している。	使い慣れた家具の持ち込みも自由で居心地がよく安心でき、自分の居場所作りができるようになっており、その人らしく快適に過ごせる支援がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを設置し必要な福祉用具を活用し安全に生活できるよう努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	②	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	④	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	④	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	③	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない